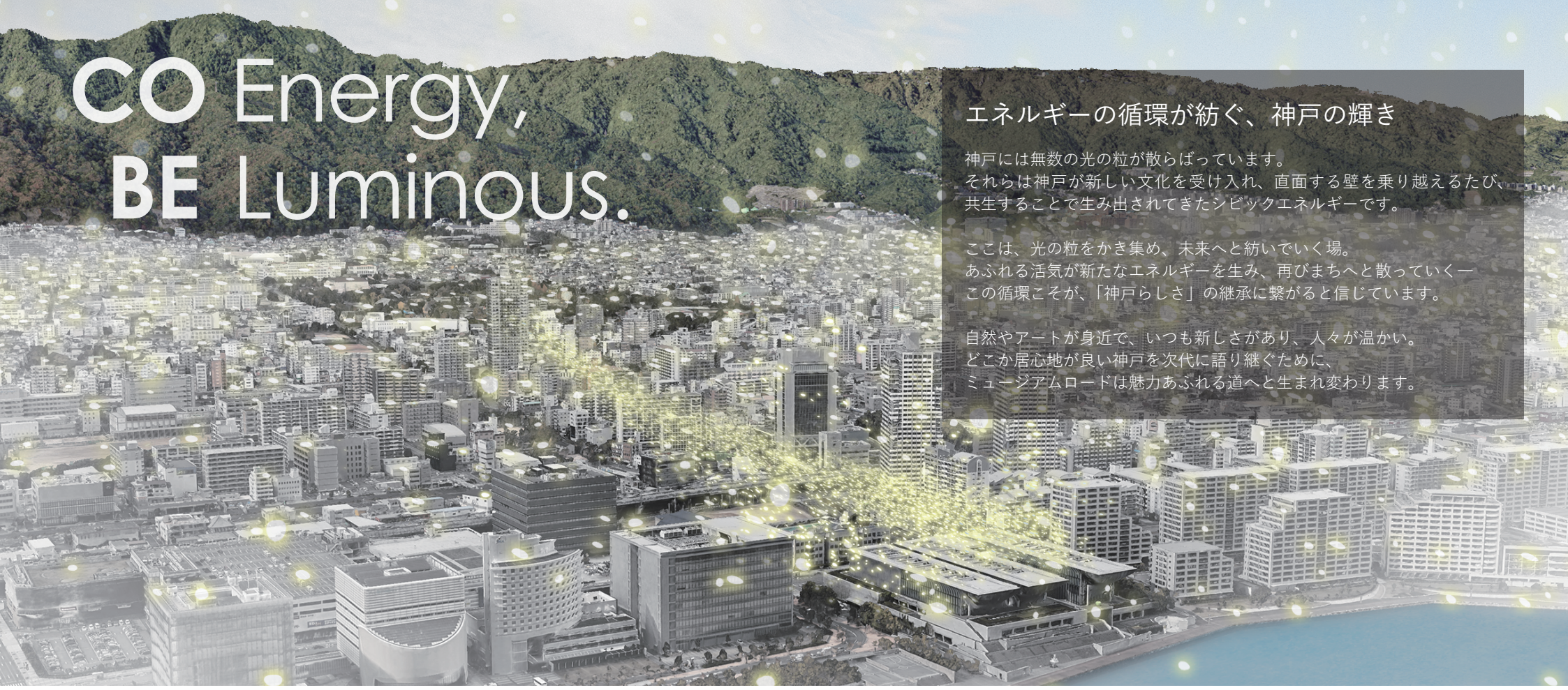
CO Energy, BE Luminous.



エネルギーの循環が紡ぐ、神戸の輝き

神戸には無数の光の粒が散らばっています。
それらは神戸が新しい文化を受け入れ、直面する壁を乗り越えるたび、
共生することで生み出されてきたシビックエネルギーです。

ここは、光の粒をかき集め、未来へと紡いでいく場。
あふれる活気が新たなエネルギーを生み、再びまちへと散っていく―
この循環こそが、「神戸らしさ」の継承に繋がると信じています。

自然やアートが身近で、いつも新しさがあり、人々が温かい。
どこか居心地が良い神戸を次代に語り継ぐために、
ミュージアムロードは魅力あふれる道へと生まれ変わります。

1 文化が融合し、すべてが共生してきたまち

シビックエネルギーが紡いできた神戸らしさ

神戸は港町として発展し、灘の酒造りや恵まれた自然環境を生かした産業、鉄道や船など多様な交通手段、臨海部のにぎわい、数多くの教育機関、まちに根付いた海外文化など、**多彩な要素**が重なり合っています。それらが生み出す**新しい流行や文化を発信し、すべてが共生してきた**ことによってシビックプライドを醸成し、そのエネルギーによって豊かな地域資源が形成されてきました。また 1995 年の震災は「**市民が神戸市民であることを誇りに思う気持ち**」が原動力となり、創造的復興により乗り越えたように、シビックエネルギーそのものがまちを成長させ、神戸らしさを生み出しています。一方で、人口減少にともなう若年層の流出や、在留外国人の多国籍化などによりコミュニティの形が変わり、**市民のシビックエネルギーが薄れていく**ことが懸念されます。さらに、利便性の追求が余暇時間を増長してきている中で、画一化された過ごし方により**コミュニティとの関わりが希薄になり、心身の豊かさが失われる**と考えます。

2 「ミュージアム」の再定義によるリデザイン

日常と余暇の媒介としてのミュージアム

一般にミュージアムといえば、アート鑑賞や博物館での学びといった「受動的な体験の場」が想起されます。しかし、その歴史的役割と未来に求められる機能を考察すると、ミュージアムは、「人々に感動や生きる喜びをもたらし、人生を豊かにすると同時に、社会全体を活性化する力をもつ、能動的な活動の場」としての可能性を秘めていると考えます。

私たちは、ミュージアムの存在を「**より身近で、日常の延長線上にある余暇を自分らしく生きるための糧**」と再定義し、ミュージアムロードを「**日常に彩りをもたらし、新たな社会の活力を生み出し得る場**」として生まれ変わらせることができると考えます。

愛着がにぎわいを生み、まちに染み出す

ミュージアムロードには神戸独特の山から海へとつながるゆったりとした時間が流れています。また 3 つの鉄道路線が横断する交通利便性に加え、王子公園大規模リニューアルにともなう大学誘致や JR 灘駅前の整備をはじめとした都市機能の更新により、まちのさらなる成長の中心となることが期待される場所です。現状はアートオブジェクトを設置する取り組みが行われているものの、人々の滞留やアクティビティの誘発にまでは及んでいません。

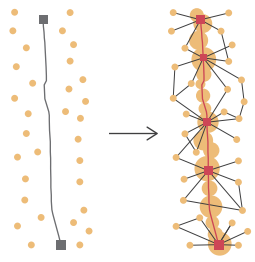
これからのミュージアムロードに必要なのは、ここを利用するすべての人たちが、**まちを愛するからこそ生まれるエネルギーを共有するデザイン**であると考えます。季節を超えて何度も通い続けるなかで、そのエネルギーから生まれるアクティビティに主体的に関わるようになり、ミュージアムロード全体への愛着が徐々に育まれていきます。その**愛着が、点としての人々の賑わいを線として結び、面として広げ、まち全体の活性化につながる**－私たちはその実現のためのデザインを提案します。

3 日常を彩る、まちの骨格としての道へ

デザインフレームワーク

課題認識をもとに、ミュージアムロードが目指す未来像に向けて 3 つの**目標**を設定しました。これらは、神戸が醸成してきた、「**混ざり合い、共生することで生まれるシビックエネルギー**」を未来へ紡いでいくための指針です。さらに、これらの目標を実現するため、5 つの**要素**を見出しました。これらの要素の絡まり合いが人々のアクティビティを誘発し、それらが**ノード**として形に現れることで多様性が連続し、彩りあるまちの骨格を形成していきます。

MISSIONS 目標



1 地域資源の活性化
灘文化軸としての南北のつながりを強化しつつ、周辺の多様な地域資源と相乗効果を生み、まち全体を活性化する

2 神戸らしい日常の継承
地域のシビックプライドを育み、多様な人々や文化と融合することで、神戸らしい彩りのある日常を紡いでいく

3 持続可能な地域社会の形成
環境と調和し、世代間での交流を育みながら、次代へ受け継がれる持続可能なコミュニティを創出する

ELEMENTS 要素

CO GREEN
地域と地球に優しい場

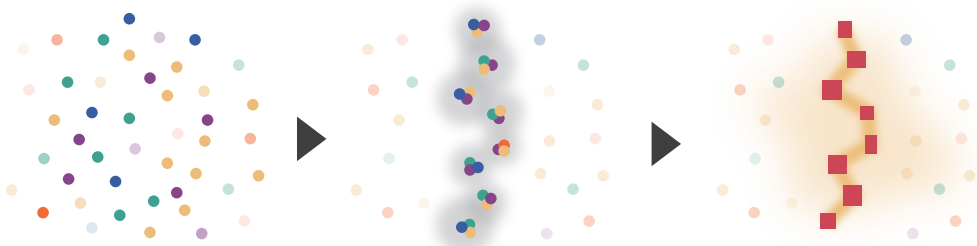
CO LOCALITY
地域資源を通して愛着を育む場

CO DIVERSITY
多様な人々が交わり見守る場

CO ACTION
市民の主体性がにぎわいを生む場

CO INSPIRATION
創造性が日常を彩る場

NODES ノード



まちに分散する要素

要素が絡まり形成されたノードがアクティビティを誘発する

ノードが連続するとともに骨格となりまちに広がる

組織の垣根を超え、ともにまちをつくる

神戸市では三宮駅エリアを中心に、官民学の連携のもと、道路空間の再整備を通じた先進的なまちづくりが進められています。憩いとにぎわいに溢れた空間を生み出すためには、まちづくりに携わる**多様な担い手が、それぞれの強みを生かしながら連動していく**ことが欠かせません。

私たちは、**「よりよいまちをつくる」という共通の目標を目指して協業する、組織横断的な体制づくり**が必要であると考えます。

市の取り組みを拡張し、日常に寄り添い続けるものに

神戸市では現在、市民のより良い暮らしの実現に向けた様々な取り組みが行われています。それらを持続可能なものとしてまちに根付かせるために必要なのは、**市民が自分事として、主体的に参加し、その恩恵を実感できる**ことです。

私たちは、**市の取り組みと人々の日常なアクティビティが交差する機会を増やす**ことが大切だと考え、それらを拡張するように、様々な仕掛けとしてミュージアムロードに散りばめます。

GO GREEN KOBE good for the environment
KOBE PLASTIC NEXT
KOBE KATSU
kobelin
開工神戸 KOBE OPEN FACTORY
トレイルステーション神戸

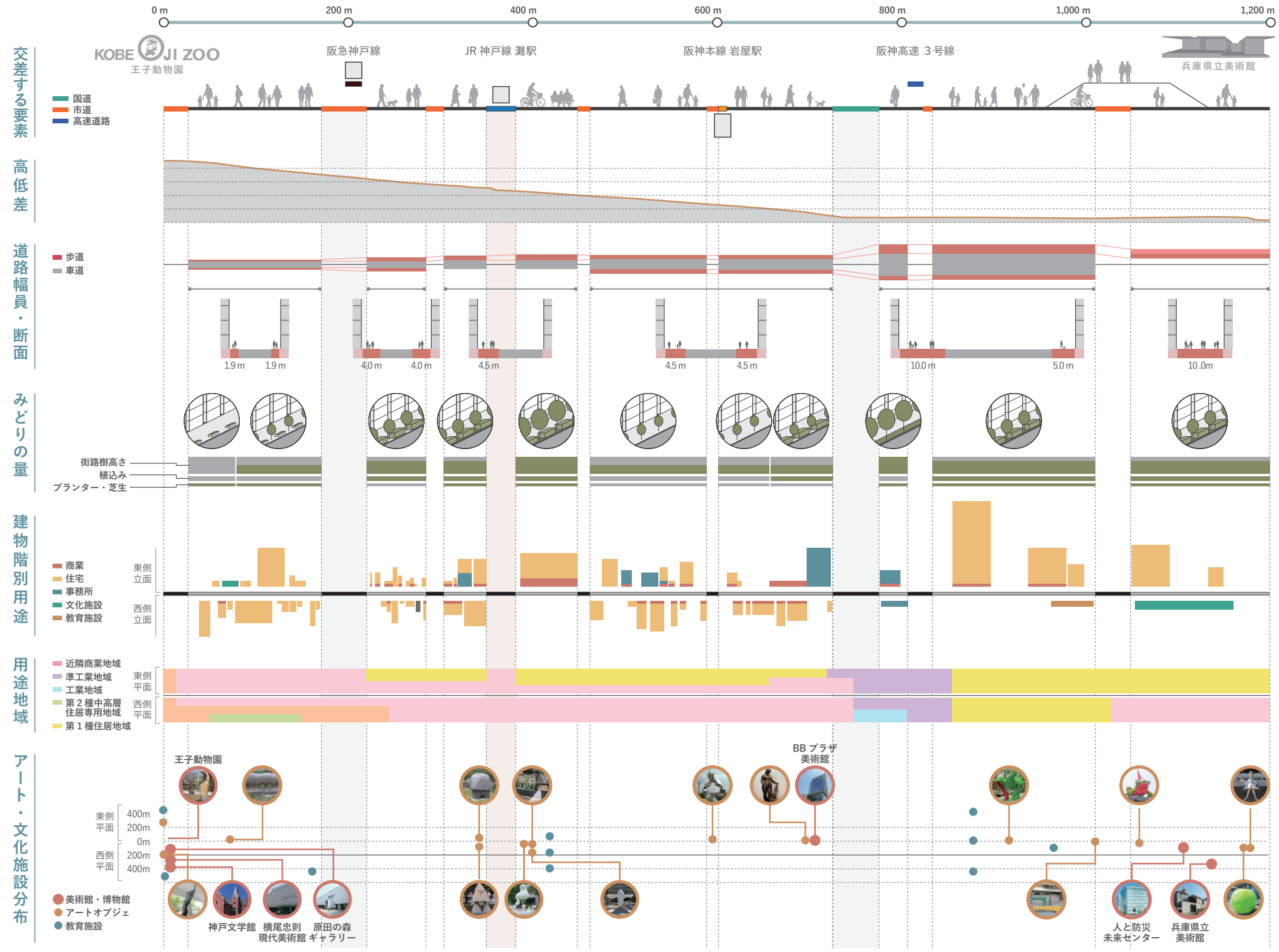
4 地域の文脈を丁寧に読み解き、場づくりの拠りどころに

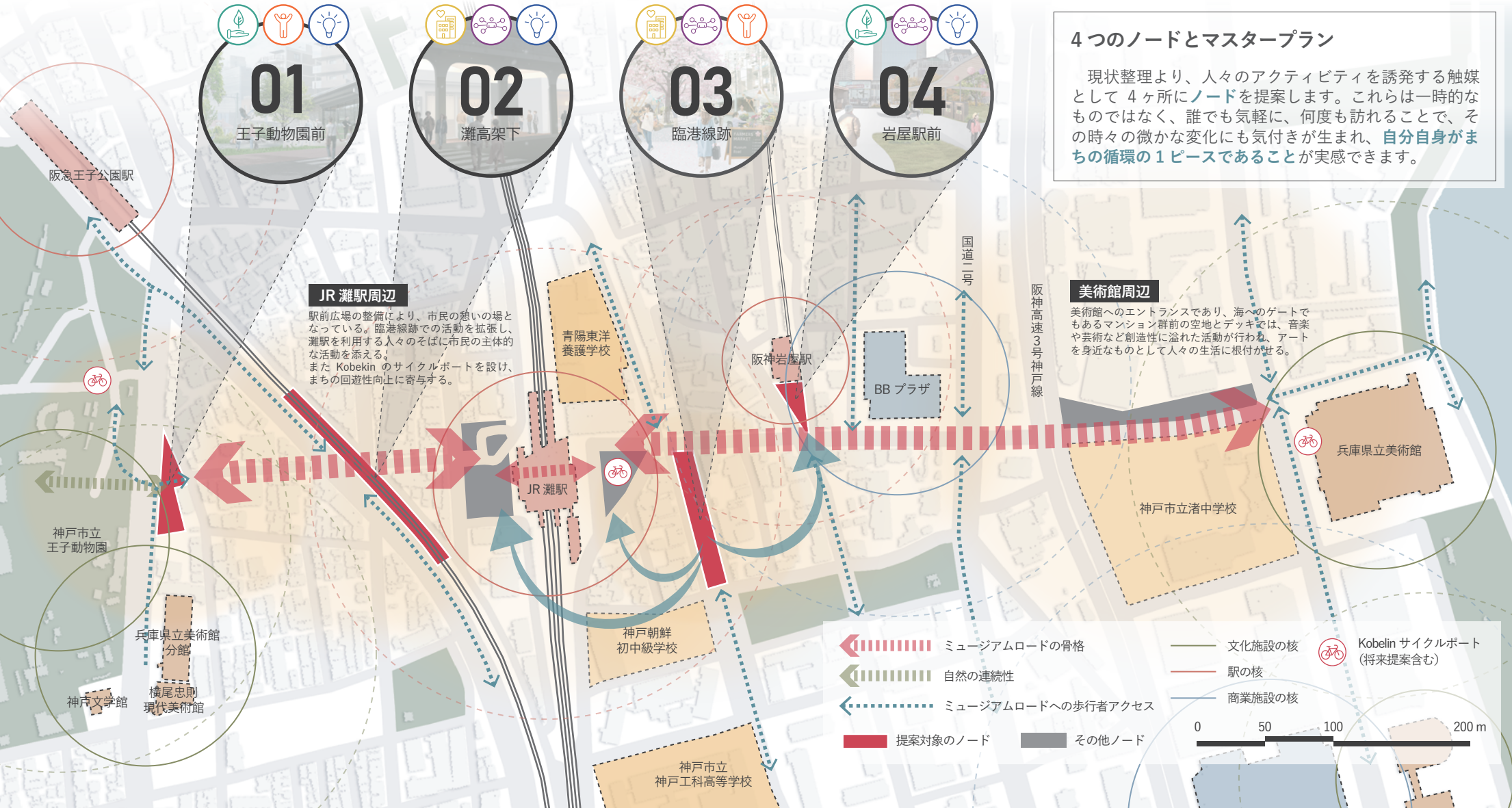
通りに根付いたまちのリズムを読む

ミュージアムロードの 1.2 km には、鉄道や緑地、道路など、スケールも性格も異なる都市のレイヤーが幾重にも交差しています。歩を進めるたびに景色の表情が移ろい、**まちのリズム**が息づいていることを感じられます。これらを構成する要素を分解し、ひとつひとつ丁寧に読み解くことで、**それぞれの場がもつポテンシャルを引き出す空間をつくるため**のヒントが得られます。

エリアの特色を生かしながら、みんなで場を育てていく

エリアの特色を生かした場づくりを持続させるには、まちづくりの担い手である市民自らが、使い方を考え、手を動かし、運営に関わり続けることが欠かせません。住む人と訪れる人が、それぞれの視点で小さな活動や工夫を持ち寄り、日々の手入れや試みを重ねていく―そんな**手作りの積み重ね**が、通りの魅力を更新し、**愛着とにぎわいを育てていく仕組み**を展開していきます。





4 つのノードとマスタープラン

現状整理より、人々のアクティビティを誘発する触媒として 4 ヶ所に**ノード**を提案します。これらは一時的なものではなく、誰でも気軽に、何度も訪れることで、その時々の微かな変化にも気付きが生まれ、**自分自身がまちの循環の 1 ピースであること**が実感できます。

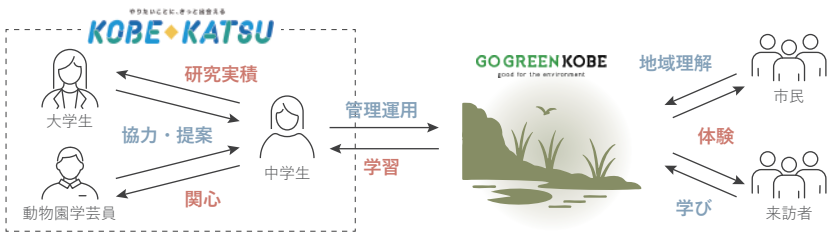
5 多様な要素が絡まり合い、新たな風景を作り出す４つのノード

まちに開かれた庭としてのビオトープ

リニューアル後の王子動物園は、環境教育の場としての役割が重要視されています。王子動物園のエントランス空間に面したこのエリアでは、神戸の山麓に生息する生き物が育ち、鳥の飛来地となるビオトープを整備します。市民や来訪者が気軽に立ち寄れるよう開くことで、**自然との共生への意識が日常に芽生える**とともに、季節や天候とともに移ろう**自然の変化に気付きや発見**を与えます。また中央の道が**ミュージアムロードのゲート**としての役割を担うとともに、**新しい王子動物園のエントランス空間との一体感**を創出します。

地域で育てる学びのフィールド

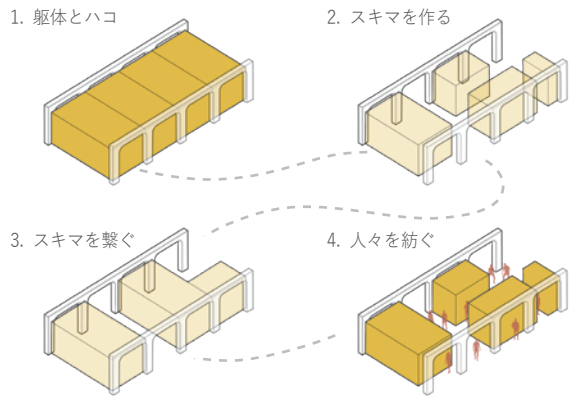
地域を巻き込んで部活動を展開する KOBE KATSU の一環として、学生がビオトープを主体的に管理し運用しながら自然について理解を深める、生きた教室になります。日々の手入れのなかで、生態系の小さな揺らぎや変化を感じ取り、試行錯誤を重ねます。また動物園や大学との連携によりアドバイスを受けながら、**考え、育てるビオトープ**を目指します。また、GO GREEN KOBE の実践の場としても、**まちにひらくことで取り組みを広く伝え、共感の輪を育てていきます**。



灘高架下に出会いと発見を生む

灘高架下には店舗が点在していますが、歩道に面した沿道店舗としての機能に留まっています。そこで、ハコを歩道よりセットバックして配置し、ハコとハコの間には中庭となるコミュニティスペースを設け、**店舗と人々の繋がりを生む**仕掛けを施します。これらの繋がりが、ミュージアムロードから波及するように、**東西の高架下空間へとコミュニティの連続性**を生み出します。また土木遺産にも認定された灘駅前拱橋下の空間では、その高いデザイン性と歴史に目を向けられるよう、歴史を学ぶことができるスペースを設けます。

入居する店舗は、日本酒やレザークラフトなど、神戸の伝統産業と身近に触れ、未来へと引き継ぐきっかけとなります。また、それらとコラボしたミュージアムロードグッズやイベントの企画により、道全体としてのブランディングに寄与します。ミュージアムロードのファンを獲得し、**市民と来訪者の双方から愛される**道となるため、ここから魅力を発信します。

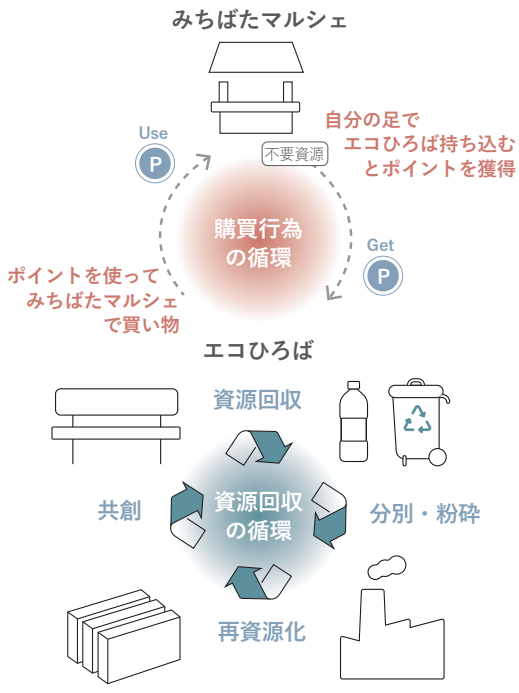


ミュージアムロードに奥行をもたらすマルシェ空間

臨港線跡地は、見通しのよい**直線性**とミュージアムロードと交わる**結節点**という空間特性を有しています。この特性を活かし、ミュージアムロードに対して**にぎわいの奥行**をもたらす「みちばたマルシェ」の場へと再編します。ここでは、生産者と消費者の会話を交えた買い物を通じて、神戸の地域資源やそれを支える担い手に出会える機会を創出します。ただの購買行為にとどまらない関係を醸成していくことで、**食や暮らしの背景が共有される拠点**となっていきます。また、学生や市民、これから飲食店を始めたい人など、多様な人が**“売り手”として挑戦できる**仕組みを構築し、地域の新しい担い手を育てていきます。週末はマルシェの拠点として、回遊とにぎわいを生み出す場へと転換する一方で、平日は閑静な雰囲気を保ちながら、憩いの散歩道として機能する余白を残し、日常の延長にある小さなにぎわいを育みます。

購買行為から資源回収への接続と循環

みちばたマルシェでは、「**地域資源を味わう**」体験が生まれる一方で、容器や包装などの不要資源も発生します。そこで、「**回収と再資源化**」を担う受け皿として、ミュージアムロード沿いに「エコひろば」を点在させます。消費者が自らの足で不要資源を持ち込むことで、マルシェでの買い物に使える**ポイントを獲得**できる仕組みを導入します。資源循環のプロセスに実際に関わる機会が環境意識を高めるきっかけとなると同時に、神戸市が取り組んでいる「**エコノバ**」をはじめとした資源回収場所の**日常的な利用を促進**します。こうして購買行為は自然に資源回収へと接続され、回収された資源は新たな形へと生まれ変わり、**まちの景観やにぎわいへ還元**されていきます。



駅前の資源回収ステーション

岩屋駅前広場は、地域住民が通勤や通学などで**日常的に訪れる場所**です。駅前を「エコひろば」とし、資源回収ステーションの機能を付与することで、従来の回収ステーションが抱えてきた「**資源を持ち込む人に利用が限られる**」**という課題の解決を通じて地域交流を促します。**「エコひろば」は、回収した資源から生まれたファーニチャーやアートオブジェクトを配置し、「**不要資源**」**が**「**価値あるもの**」**へと変わる**プロセスを体感できる場となります。これにより、「消費者」から「価値生産者」へと意識が変化するきっかけが生まれます。市民は資源回収だけでなく、再生プラスチックで何を作るかのアイデア出しや制作ワークショップにも参加し、「みんなで資源を集め、みんなでエコひろばをつくっていく」**共創サイクル**を通じて、地域への愛着と環境意識が向上します。